

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600450
法人名	有限会社 グループホームあまご
事業所名	グループホームあまご
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲 8 5 5 - 1 5
自己評価作成日	平成23年1月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者様のペースに合わせてそのご家族様と職員が一緒になって楽しく暮らす大家族である。そのために「一人ぼっちにしない」「いつも笑顔で語り合う」「楽しく遊ぶ」「楽しくお手伝いする」「ご馳走を楽しく食べる」「体調の変化を読む」を心掛けていていつも賑やかなホームです。
 ・健康管理：体調の変化を隣に住んでいる主治医に直ぐ連絡、指示を得る事が出来る。訪問看護ステーションの協力、病院との連携が良いので、軽度の肺炎、脱水症などホーム内で治療が出来る。終末期治療も家族が希望すれば看取りも出来る（今まで4人看取っている）
 ・地域との連携：小学校の行事（運動会、学芸会）への参加、小学生のあまご訪問、地域の行事（御大師様、お祭り、盆踊り）に参加。（車いす生活の人も参加している）
 ・毎月あまごだよりを発行し、利用者様一人ひとりの様子を担当者がスナップ写真入りで書いて配布している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地区と小学校合同の運動会や学芸会があり、運動会では宝拾いやパン食い競争等、事業所や利用者の出番も用意してくださっている。学芸会の際には、利用者のお一人がキーボードを弾いて他の利用者が歌い、地域の方や子ども達の前で披露された。又、近所の方との日常的な行き来があり、野菜をおすそ分けしてくださったり、事業所に立ち寄ってくれ、利用者とお茶を飲んだりおしゃべりをして帰られることもある。開設から年月を重ねて、地域の方は利用者と接する機会がよくあることで、理解を深めてくださっているようで、事業所や利用者を地域の一員として受け入れてくださり、日常的に交流されている。
 医師である法人代表者のご自宅がとなりであり、毎日訪れておられ、夜間時等、いつでも駆け付けてくれるようになっており、利用者・職員・ご家族の「安心感」となっている。調査訪問時、代表者は体調の優れない利用者の様子を見に来られ、その後ハーモニカを吹いて、それに合わせて利用者が歌を歌ったり、拍手しながら楽しく過ごしておられ、又、訪問看護とも連携を図って、利用者個々の体調管理に努めておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) ふなっこ

記入者(管理者)
氏名 藤澤邦哉

評価完了日 23年 1月 6 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域とのふれあいを理念に掲げている。介護実践の原点は、当ホームで掲げている理念に基づく職員は認識している。	
			(外部評価) 理念の一つに「地域の人とのふれあいを大切にします」と掲げて、事業所では「人と人のかかわり」をととても大切にされている。法人代表者や理事は、地区の役員等を引き受けられ、地域活動等にも積極的に参加しながら地域の方達との関係を深めて来られた。さらに、理念に基づきながら、毎月ユニットごとに職員の目標を決めておられ、1月は「健康管理・人の身になって考える」ことに決めて意識して取り組めるよう、居間に掲示されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 利用者個人と地域の交流は盛んで運動会や学芸会に招かれたりして出場や出演の機会がある。また、小学校の校外授業の場所として度々小学生が訪れたり町内の各団体が慰問や見学に来ることがある。施設長や管理者は、地域の区長や各部の部員をしており常に自治会活動に関係している。	
			(外部評価) 地区と小学校合同の運動会や学芸会があり、運動会では宝拾いやパン食い競争等、事業所や利用者の出番も用意して下さっている。学芸会の際には、利用者のお一人がキーボードを弾いて他の利用者が歌い、地域の方や子ども達の前で披露された。又、近所の方との日常的な行き来があり、野菜をおすそ分けして下さったり、事業所に立ち寄ってくれ、利用者とお茶を飲んだりおしゃべりをして帰られることもある。開設から年月を重ねて、地域の方は利用者や接する機会がよくあることで、理解を深めて下さっているようで、事業所や利用者を地域の一員として受け入れて下さり、日常的に交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域とのふれあいを理念に掲げている。介護実践の原点は、当ホームで掲げている理念に基づく職員は認識している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議ではこのサービス評価の結果はもとより当ホームでの利用者の生活状況や看取りや事故などの報告も行ってきている。地域災害における当ホームの役割についても話し合われた。また、議事録は、いつでも誰でも閲覧が可能になっている。	
			(外部評価) 会議の日にちに合わせて、地域の方の役員会が開催されるようで、会議には地域からの出席者が大勢ある。事業所では、会議を重ねて来られ「地域の方達とのかかわりが密になった」と成果を感じておられた。会議は、地域の方が議長も務めてくださっており、事前に管理者は、自治会長と議題について相談して、医師である法人代表者が、認知症や感染症・緊急時の対応についてお話されることもある。事業所から利用者の現況報告をされたり、看取り支援の事例を報告された際には、ともに支援されたご家族の方も参加してくださった。	会議のあり方のさらなる工夫から、事業所の提供するサービスについての意見を引き出し、事業所のサービスの向上に採り入れて行かれてはどうだろうか。たとえば、実際に、参加者と避難訓練を行ってみたり、日々のケア等についても、外部者からの視点として、見ていただきながら気付いたことや感想を聞き取るような機会等も作ってみてはどうだろうか。さらに、利用者も参加できる会議の工夫も考えてみてはどうだろうか。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 利用者ごとのケアプランを提出している。事業所としては、町の担当者は身近な存在と認識しており分らないこと、不明なことなどあるのですぐに連絡をとりいい解決法を考えてもらっている。運営推進会議にも参加してもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、町の担当者から成年後見制度について説明していただいたこともある。管理者は、町の担当者とメール等で連絡を取りながら事業所運営をすすめておられる。町内のグループホームが集まり連絡会を結成されている。利用者も参加して運動会を行われたり、町内の方々に認知症の理解を深めてもらえるよう講演会等も開催されており、町にも広報等のサポートをお願いしたいと考えておられた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホーム内に身体拘束に関する条項を掲示している。夜間以外は施錠はしておらず、また身体拘束については毎年学ぶ機会をもっており全職員が理解、認識、実践している。	
			(外部評価) 気ままに出かけるような利用者の方もおられるが、近所の方が気にかけてくださっており、ご本人に声かけしてくださることもある。職員がそっと付き添い、近くにある「お堂」を参って帰られる方もいる。調査訪問時、出かける利用者を止めることなく、職員は付き添われ、数分後に庭の花を摘んで戻って来られる様子がうかがえた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について毎年学ぶ機会を持っている。職員は、普段の利用者との会話の中でも気がつかないうちにプライドを傷つけないよう言葉の虐待にも注意を払っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所外での研修に参加し、その報告書を回覧し権利擁護について学ぶ機会を設けたり運営推進会議で町の関係者に制度の利用について質問をしている。制度の活用という話になれば出来る限りの協力はしたいと考えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書や運営規定を十分に説明している。利用に関する不安や疑問点には都度に説明を行って理解して頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設けている。家族等には面会や電話を通じてコミュニケーションを密にしながら意見や要望を聞くようにしている。職員から管理者を通じて運営者側に連絡をしたり家族会や運営推進会議などの場で意見や要望を求めたり報告をしている。	
			(外部評価) 事業所では、ご家族への「こまめな連絡」で信頼関係作りに取り組みされている。事業所便り「あまごだより」は、毎月ユニットごとに作成されており、便りの一角は、利用者個々の担当職員がご本人の日頃の様子を記入するようになっている。ご家族からは「ホームでの様子がよくわかり安心する」等、とても好評で、楽しみに待っておられるご家族もあるようだ。時にはお返事や感想をいただくこともある。ご家族の来訪時には、要望等を出してもらえやすいような言葉かけや雰囲気作りに配慮されている。家族会は年に1回、行っておられ、運営推進会議とも重ねて行っておられる。	さらに、ご家族が集まるような機会をさらに活かして、事業所の提供するサービスについて具体的に意見をうかがってみたい。普段の食事を一緒に食べながら意見をうかがったり、薬のことや入浴支援等、ご家族が知りたいことや気になるようなことを探り、個々に合わせて情報提供していかれてほしい。利用する側であるご家族の声はとても貴重であり、事業所のサービスを良くして行くためのきっかけにもなる。意見を具体的に引き出す取り組みに工夫を重ね、サービスの向上につなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			代表者や管理者を交えた食事会やカンファレンスで運営に関する意見や提案を聞く機会をもっているが基本的に何時でも話が持てる状況である。	
			(外部評価)	
			職員は、畑作業や共用空間の壁面のレイアウト等、利用者と一緒に出来るよう取り組まれている。又、季節行事のアイデアを提案されたり、ケアのアイデア等を提案しながら、職員で共有して取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者も職員と共に勤務しており、また、カンファレンスにも参加して努力や実績、能力の把握に努めている。努力、実績に応じた給与にしているが水準に満足していない職員もいる。決まった労働時間で勤務している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			在宅介護研修センターや県のGH連絡協議会の研修の予定表を掲示している。代表者から法人外の研修を勧めることもある。ホーム内では、年間の予定をたて研修を行っている。実践者研修や四国フォーラムや全国大会に参加し認知症介護の動向に触れる機会を持っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			町内にはGH連絡会があり管理者は毎月会議を開いている。また、その会の中で職員も集まり事例検討会や運動会、バレーボール大会を開いたりして他の事業所との交流を深めている。年に1回、連絡会が主催して地域の方々や職員、家族を対象に認知症講演会を開催している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			開始前には、関係ケアマネジャーを通じて自宅訪問やホームの見学をしていただき話を聞きながら本人との関係づくりを進めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 開始前には、関係ケアマネジャーを通じて自宅訪問やホームの見学をしていただき話しを聞きながら家族との関係づくりを進めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは、本人の安心と心地よさと考え本人や家族との話しの中で情報を収集しそのためにはどんな支援が必要か検討している。他のサービスの必要性があれば関係者との協議の上で利用を考えていきたい。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、共に笑い共に喜び悲しみ、同じ目線で感情を共有することを職員は意識できている。個々の暮らしのペースに合わせている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 代表者や管理者だけが関係を持つのではなく職員一人一人が意識して家族との信頼関係が築けるように話しかけている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族、親せき、兄弟や知人などの面会があり度々、来て頂くよう声をかけている。また、日頃の会話などから得たそれぞれの馴染みの場所に行っている。本人とその場所に行けないながらも話を合わせ想いを共有するようにしている。何よりもこの今の場所が安心して心地よく暮らせる馴染みの場所としてなるよう努めている。 (外部評価) お若い頃に一緒に職場で働いていた友人が訪ねて来てくれ、居室でおしゃべりをして過ごされる方がいる。又、信心深い方もあり、居間に貼ってあるお札に手を合わせたり、お経をあげたり、近くのお堂にお参りされたり、お大師様のお接待等に出かけておられる。利用者が「ご家族に電話したい」場合には、職員がサポートしてお話できるように支援されている。事業所に入居してから、ご近所の方と親しくなられ、職員と一緒にうかがうようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話は、ほとんど毎日、朝から眠る前まで絶える事がない。また、職員も会話に加わっている事が多く利用者同士の会話が円滑にいくよう心掛けている。現在、一人の利用者が孤立気味であり対応に苦慮している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 御家族からの申し入れがない限り入院しても最低3カ月は契約を打ち切らないようにしている。退所しても地域の中での付き合いは継続している。入院退所されてもお見舞いに行ったりして本人・家族との関係を維持している。亡くなられた方の家族から近所の方の入所への相談があった。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人本位への意識は浸透している。センター方式の活用と日頃のコミュニケーション量を沢山持つことで本人の思いや希望、気持ちを把握しサービスに反映している。それが、叶えられない場合でもその思いや気持ちを大切にしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者とのかかわりを多く持つよう努め、それらの情報をもとに、センター方式の様式等を用いて、利用者の思いの把握に努めておられる。様式等の検討を重ねて、記入しやすいうように考えて取り組んでおられるが、利用者によっては聞き取れることに偏りがあるようだ。	利用者とともに生活する中で場面作り等も工夫して、情報収集に努めていかれてほしい。個々の暮らし方の希望やその日の過ごし方の希望を探り、より個別で細やかな支援ができるよう、介護計画につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用開始前に本人や家族から聞き取りをしたり入所後も新たな発見があれば職員同士の話しで共有で生きるようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 理念の通り、まずは本人のペースに合わせることを意識し生活の中での細かい変化も見逃さない様職員一人一人が注意を払いその情報をみんなで共有し分析できるようにしている。出来なくなった事のみを捉えるのではなくいかにすればまだ出来るかを考えるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 担当者会議を開き計画の評価とモニタリング、実践状況を報告しあっている。担当者会議には本人や家族、外部委託の看護師、主治医にも参加してもらっている。必要であれば迅速な介護計画の変更も行うようにしている。</p> <p>(外部評価) サービス担当者会議を開催して、ご家族・医師である法人代表者も出席して、介護計画は3か月ごとに計画内容について評価を行い見直しをされている。遠くにお住まいのご家族とは電話で近況を報告して要望をうかがうようにされている。ご本人やご家族からは、具体的な要望等はあまり出されないようであるが、職員が日頃の利用者とかかわりの中からの気づきを出し合って話し合い、個々の支援を検討するようにされている。</p>	<p>事業所では「個別支援」「利用者のペースに合わせる支援」に努力されている。今後さらに、利用者の思いや意向を十分に踏まえた支援を実践できるよう利用者主体の介護計画の作成に努めていかれてほしい。職員で介護計画をケアのガイドとして共有できるような仕組みを作り、ご家族等とも共有しながら、支援の内容も拡げて考えてみてはどうか。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の記録にはケース記録とふれあいタイム、日々の排泄やバイタル、食事がわかる記録と随時の申し送りノートがある。ケアプランに対応した番号を記録に書き実践や結果がその日その日で分かるようにしている。しかし、気づきや工夫、考察の記録には、職員によって差がある。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 他科外来の同行、訪問看護や訪問リハビリの活用をしている。必要であればその他のサービス活用の支援をする考えはある。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 散歩やドライブなどで周りの自然環境の変化を楽しんだり、町内、自治会、近くの小学校や消防団との関わりを持っている。御被八十八カ所のお堂が近くにありそこに拝みに行くのを楽しみにしている方も多数いる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価) <p>入所前に当ホームのかかりつけ医の説明をし、同意を得た上で入所後の受診を行っている。利用者は、必ず月に一回往診を受けている。施設長がかかりつけ医なのですぐにホーム内で受診が受けられる態勢がある。かかりつけ医の指示に従い病院への受診を支援している。</p>	
			(外部評価) <p>医師である法人代表者のご自宅がとなりであり、毎日訪れておられ、夜間時等、いつでも駆け付けてくれるようになっており、利用者・職員・ご家族の「安心感」となっている。調査訪問時、代表者は体調の優れない利用者の様子を見に来られ、その後ハーモニカを吹いて、それに合わせて利用者が歌を歌ったり、拍手しながら楽しく過ごしておられた。又、訪問看護とも連携を図って、利用者個々の体調管理に努めておられる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価) <p>入所時に当ホームと業務契約をしている訪問看護ステーションの説明を行っている。訪問看護師には、担当者会議に出席してもらったり各利用者の健康チェックを行ってもらっている。各職員は、情報や気付きについて医療のみならず介護の面でも相談や質問をよく行っている。</p>	
			(外部評価)	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価) <p>主な入院先となる病院関係者とは日頃からの付き合いがあり入院後の経過や退院へ向けた計画など頻りに連絡が取れている。こちらからも入院時には、利用者に関する情報を提供している。</p>	
			(外部評価)	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価) <p>入所前に当ホームの重度化、終末期に関する指針の説明を家族に説明している。早い段階から本人や家族から直接話しがあることもあるが日頃の会話の中でも死生観についても注意を払っている。終末期においては職員、医師、看護師、家族等との話し合いや協働の体制が出来ている。</p>	
			(外部評価) <p>利用者やご家族には、事業所で看取り支援を行うことが可能なことを説明しておられ、利用者ご家族も事業所で最期まで見てもらいたいと希望されている。となりの法人代表者のご自宅2階は、利用者の終末期等、ご家族が付き添われる場合、泊まっていたりするようにされており、事業所では「ご家族と協力しながら、利用者ご本人を最期まで支えていきたい」と考え取り組まれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故の時の対応マニュアルがあり施設内に掲示している。その時には、すぐに主治医や管理者へ報告が入っており判断の元、救急車を要請したりすることもある。AEDや心配蘇生法、異物除去の訓練も救急救命士より受けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対策に関しては運営推進会議においても議題にあがり自主防災の中でホームとしての役割について話し合われている。避難訓練においては、職員の入れ替わりにあわせて、地元の消防署や近所の方の協力のもとで行うように努めている。	
			(外部評価) 事業所は、山間部に立地するグループホームで、周辺地区は土砂災害の危険性のある区域でもある。事業所では昨年の評価実施後に「災害時、事業所が地域にできること」について、検討を重ねて来られたが「地域との関係を深め、協力体制を作る」ことに決められ、いざという時は地域の方達と協力し合い「事業所のできることを一生懸命行う」ことにされた。消防署の方のアドバイスで救急救命法を勉強されたり、利用者個々の居室の入り口には個々の名前等を書いた木の札が掛けてあり、避難が完了した利用者の札を裏向けるように決めておられた。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格、個性や人権について考え、言葉かけでも無意識に傷つけないように注意を払い、一人一人に合わせるようにしている。	
			(外部評価) 理念の一つに「常時会話に心掛け利用者が安心して生活できる環境作りに努める」ことを掲げて、職員は利用者によく言葉かけをされている。利用者は現在、全員女性でおしゃべりが好きな方が多いようである。職員は、利用者となりて記録を取ったり、利用者と一緒に作業をする等、そばに居るように心がけておられた。調査訪問時、もうすぐ誕生日の利用者に「誕生日に食べたいもの」を聞いておられ、誕生日当日にご本人のために皆でお祝いできるように、計画を立てておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 介護者側が一方向的に何かをするのでなく、自己決定の場面を作り出すことを意識している。自己決定が困難な場合も表情や言葉の中から気持や意思を読み取るように努めている。自己決定にそぐえない時は、本人と話したり代替案を考えるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 理念に基づき、職員側の一方的なペースでなく一人一人のペースを大切にしている。認知症の進行予防や健康面を考慮して大まかな一日のリズムはあるが一人一人に応じて随時に対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で服を選んでもる人もいるが困難な場合は一緒に選んだり、髪の毛が気になる人にはホーム内での理髪や、外でのパーマがけの声かけ、支援を行っている。各利用者が自分のブラシを持っていて自分で整えている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事に関する作業においては出来ることを職員と一緒にしている。朝も昼も夜も職員も一緒に食べている。たまに利用者同士の口げんかみたいなのがあるが明るい雰囲気の中で食事ができている。	
			(外部評価) 食事中も職員が食事の内容や味等について「畑でできたかぶよ」「ゆずの果汁の酢ものだから体にいいよ」等、話題を作りながら食事をすすめておられた。湯のみとお茶碗は、ご自分のものを使用されており、他の食器は、介護用の軽い食器を使っておられた。食材を小さめに切ったり柔らかく煮たりされていた。事業所周辺には商店は1つしかないため、食材は町の商店に必要な食材を注文して取りに行ったり、配達してもらったりしている。又、乾物等もうまく使用しておられる。地元で獲れたお米を使用しておられた。居間には今日の食事のメニューを職員が書いて掲示しておられ、利用者が見て楽しみにされるようである。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 量やバランスを考えて献立を作っている。それぞれの力に合わせた提供をしている。水分の重要性を十分に認識し、好みや場面場面、季節に応じた飲み物を提供することを考え一日の必要量を摂取できるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、ほとんどの利用者が口腔ケアを行っている。必要な方には声かけや介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄に関する尊厳を意識して排泄のみでなく排泄行為という視点に立ち一人一人の力を把握し介助者側は、一人一人に合わせた支援をしている。	
			(外部評価) 畑で獲れた野菜やご近所の方からいただく野菜等をふんだんに使用して、便秘予防にも努めておられる。夜間は居室内にポータブルトイレを置いて使用している方も、昼間はトイレで排泄できるよう支援されている。又、入居時や退院時におむつを使用していた方も、状態を見ながら自立に向けて支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 健康悪化や周辺症状などの増加が便秘によって引き起こされていることを十分に理解し、個々への運動や飲食物についても配慮をして便秘にならないよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 早く入りたい人には早く、ゆっくりでいい人にはゆっくり重なる時は話しをして個々の希望に出来るだけ添うようにしている。入浴中は、付き添い楽しく話しがなされている。曜日や時間帯は自由にしたいが職員配置の限界がある。職員や施設の都合というよりこの制度自体の問題であると考えられる。	
			(外部評価) 一番風呂を希望されたり、ゆっくり入る等の希望を採り入れたり、入浴中は職員とおしゃべりをしながら楽しく入浴される方もいる。現在は、事業所で夏は週に3回、冬は週に2回と入浴の回数を決めておられる。利用者の中には毎日の入浴を希望されるような方もあるようだが、時間や人員の制限のある中で、利用者の希望を聞く難しさもあるようだ。	事業所では、冬も週に3回入浴を支援することに取り組んでいくことも検討されていた。現在は、利用者ご本人から入浴の回数について希望を言われるような方は少ないようであるが、以前の入浴の習慣や好み等をより具体的に知るような取り組みもすすめられ、事業所でも支援を続けられるよう、努力をされてみてはどうだろうか。利用者がより気持ちよく入浴できるような配慮や工夫を重ねて「利用者のペースに合わせた個別の支援」に向けて努めていかれてほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動量とかかわりを多く持ち、夜は安眠出来るように支援している。中には時々眠れず大声で叫んだりする人がいて安眠を妨げている場合もある。入眠時の灯りは個々の希望に応じている。就寝時刻の制約はない。個々の部屋のエアコンを活用して快適な睡眠を促している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬は、担当職員が中心となり管理しており投薬管理表を作っている。薬の変更や随時での投薬に関してはDrの指示を申し送るようにしている。度々にDrに報告するようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割はこちらが決めるのではなく利用者個々の自らの意思を尊重している。好きな事、物はアセスメントや日頃のかかわりの中から把握している。暮らしての心地良さや安心や楽しみ、力の発揮の場面を作る支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出においては、個人、少人数、全体で行く場合がある。日々の散歩や、景勝地や懐かしい土地へのドライブ、学校や地域の行事への参加や個別の買い物の支援をしている。計画にこだわらずその日の状況や思いつきで外出することもある。近くに家族のある方は、家族様が外出の支援をしてくれている。 (外部評価) 町外の温泉施設の足湯に出かけたり、日々の散歩や畑の世話をされたり、又、ご近所の方が、畑のイチゴ狩りに誘ってくださり、楽しませてくださっている。又、春には、つくしやふきのとう等、山菜を取りに出かけることもある。季節のお花見やサロン、行事等にも出かけておられる。調査訪問時には、上着や帽子、手袋等を着けて暖かくして出かけて行かれる利用者の様子が見られ「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」「寒かった？」等の声かけがなされていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の利用者がお金を持つことに関しては制約していない。トラブル防止のために面会や見舞いで大金を渡す時には職員にそれを教えていただくようお願いしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に合わせている。家族などから小包や手紙が届いたときは、声をかけて電話が出来るように支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 空間が不適切だったり空間の変化が与える影響を理解し季節に応じた装飾や行事や日々の暮らしの写真の掲示をしている。所々に花や木を配置し緑にも気をつけている。移動する空間には障害物を置かないようにしている。	
			(外部評価) ホームの屋根は、菊間瓦で「あまご」が両端に据えられてある。台所と居間がカウンターで仕切られてあり、職員が食事を作っている様子も見えて、食事ができる匂いがしていた。ホーム内はきれいに掃除をされており、生花を生けておられたり「凧」の飾り等、季節に応じた飾りをされていたり、利用者の様子等が載せてある掲示物等は、利用者と職員が考えながら作成されている。腕を上げる運動のできるような道具を手作りされていたり、歌の歌詞を貼り出しておられるユニットもあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間や食卓、玄関、テラスに椅子を置き個々の居場所の選択ができるようにしている。気のあった者同士の会話の光景が朝から寝るまで続いている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時には、新しいものを用意しなくてもいいんですよ、使い慣れた物がいいですよと説明している。家族との思いでの品や写真を置く方が多い。火器以外は、持ち込みの制限はなくテレビや電気毛布など持ち込まれている方もいる。	
			(外部評価) 日中は居間で過ごされる方が多いが、居室でちょっと横になれるような方もあった。庭で摘んできた花を生けておられる方もあった。ひ孫さんからの郵便りや絵が飾られていたり、亡きご主人の写真を大切に飾っておられる利用者もいる。ご自分で使用しやすいように衣類や介護用品を箱に入れておられる方もあった。お気に入りの化粧品やハンドクリームを使っている方やテーブルセットを持ち込んでおられる方もあり、ご家族の方が来られた時には座ってお話をされるようだ。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 水道蛇口や手洗い石鹸、浴室内の設備やトイレ、電灯、介助バーなど衛生面や安全面を優先すると馴染めず使用方法が分からなくなり出てきたことが出来なくなるという方もあるが、何の何処が分からないのかを把握し、必要などころだけさり気無く手助けすることで出来なくなってしまうという喪失感を持たなくて済むよう気をつけている。	